

## 中学校で行う集団社会的スキル教育の効果

湯浅 清治 平松 敦史 増井知世子 吉田 浩一  
久山 慎一 磯野 美佳 伊賀 泰恵 新治 巧  
溝上 直美 前田 健一 兒玉 憲一 江村 理奈  
越中 康治 滝下 雅子

### 1. 問題と目的

近年、自分の思いをうまく友達に伝えることができない生徒が多くなっていると感じる。実際、広島大学附属中学校（以下、本校とする）保健室にもそのような悩みを抱えて来室する生徒が増えている。生徒達は思っていることが言えない、もし言うとも嫌われてしまうのではないかとといった悩みを打ち明けている。また、本実践参加者である中学校2年生は、昨年度クラスによってではあるが、全くと言っていいほど男子と女子が話をすることがないという状況が続いた時期があった。そこで、1年生12月から3月にかけて月1回学年全体で特別活動として、他者理解を目標にエンカウンターを実施した。各回の具体的な目標と実践内容は以下の通りである。

1月：「クラスのみんなと話してみよう」

私達の町並み、等

2月：「同じ学年の友達を知ろう」

ごちゃまぜビンゴ、等

3月：「みんなで協力しよう」

テーマをあてよう、等

この実践を行った日の生活ノートには「楽しかった」「男子の意外な一面を見ることができた」といった感想が書かれ、わずかではあるが手ごたえを得た。

一方、本校と併設されている広島大学附属高等学校において、3年前からピア・サポート・トレーニングが導入されている。その中で、社会的スキル教育について知る機会があった。エンカウンターと類似していること、エンカウンターに対する生徒の印象が良かったことから、これは中学校に導入してもよいのではないかと判断した。

そこで本年度は中2学年団、保健部会と広島大学大学院教育学研究科心理学教室との学部附属共同研究と

して社会的スキル教育 (social skills education) を導入実践に踏み切った。

### 2. 社会的スキル教育の概要

#### (1) 参加者

中学校2年生3クラスの生徒118名 (男子58名, 女子60名)。

#### (2) 指導するスキルの選択と年間計画

事前に生徒が身につけたいと思う社会的スキルについてのニーズ調査を行い、その結果を踏まえ、学年団の教員と保健部の教員、大学の発達心理学研究室の院生で話し合い、指導するスキルを決定した。生徒に実

表1 ニーズ調査結果

社会的スキルの例	順位
(1) 上手にあいさつする	5
(2) 上手に自己紹介する	6
(3) 上手に相手の話を聴く	2
(4) 上手に質問をする	4
(5) 遊びなどの仲間にいれてもらう	5
(6) 遊びなどの仲間に誘う	5
(7) はげまし、なぐさめなどのあたたかい言葉をかける	3
(8) 相手の気持ちを考えて接する	1
(9) 自分のしてほしいことなどを上手に頼む	4
(10) 自分にとって嫌なことやできないことを上手に断る	2
(11) 自分の意見や考えをはっきりと伝える	2
(12) 誤解や意見のくいちがいなどのトラブルを上手に解決する	2
(13) イライラしたり、ドキドキしたりした気持ちをコントロールする	4

Seiji Yuasa, Atsushi Hiramatsu, Chiyoko Masui, Koichi Yoshida, Shin-ichi Hisayama, Mika Isono, Yasue Iga, Isao Shinji, Naomi Mizoue, Ken-ichi Maeda, Ken-ichi Kodama, Rina Emura, Koji Etchu, Masako Takishita:  
The effect of class-wide social skills training for junior high school students

表2 社会的スキル教育実施計画と各回のねらい

回数	実施日	指導したスキル	ねらい
1	5月11日	オリエンテーション	社会的スキル教育についての意義を説明し、社会的スキルについての理解を深め、動機付けを高める。
2	5月31日	積極的な聴き方	人の話を聴くことの大切さに気づき、他者の話しを能動的に聴く方法を身につけさせる。
3	7月1日	仲間の誘い方	仲間に入ったり、誘うことの難しさや、仲間に誘われたり、入れたときのうれしさを体験し、日常生活での友人関係の形成・拡張を促す。
4	7月8日	あたたかい言葉かけ	自分の発する言葉が、相手にどのような影響を与えるかに気づき、あたたかい言葉かけとは、何かを知り、状況に応じた言葉かけができるようになる。
5	7月12日	1学期のまとめ	1学期に学習した社会的スキルをふりかえり、活動を通して定着化を促す。
6	9月27日	上手な断り方	他者からの要求を断れず従属的な関係に陥ることがある。自分がどうしたいのかを考え、断る方法とその正当さを学ばせる。
7	11月4日	気持ちのコントロール①	自分がどんなことにイライラしているかに気づき、気持ちを静めて、解決策を考えることで、感情をコントロールする方法を身につけさせる。
8	11月22日	気持ちのコントロール② (トラブルの解決策を考える)	トラブルの解決策を数多く考え、結果を予想することで、よりよい解決策を決定する方法を学ばせる。
9	12月13日	2学期のまとめ	2学期に学習した社会的スキルをふりかえり、活動を通して定着化を促す。
10	2月7日	1年間のまとめ	1・2学期に学習した社会的スキルをふりかえり、活動を通して定着化を促す。

施したニーズ調査の結果を表1に示す。生徒の希望した得点の高かったスキルから順位づけを行った。また、社会的スキル教育の実実施計画と各回のねらいを表2に示す。

### (3) 社会的スキル教育の実施方法

クラス単位の集団社会的スキル教育を実施した。期間は平成17年5月より平成18年2月の約9ヶ月間であった。授業は、主に道徳や特別活動の時間を利用して、研修室や書道教室で行われた。

社会的スキル教育は、主に1回100分から成り(50分授業×2)、全10回実施した(10回目は実施予定)。ただし、第5回の1学期のまとめのみ50分授業とした。各クラス担任(3名)が授業者となつて、副担任とのティームティーチングの方式で社会的スキル教育の授業を行った。第1回のオリエンテーションのみ学年全体で実施した。授業の実施にあたっては、各クラスにそれぞれ1～2名の大学生や大学院生が参加し、クラス担任をサポートした。

毎回の授業は、①適切な社会的スキルを用いることの重要性についての説明、②ウォーミングアップ、③問題となる場面の提示、④適切な社会的スキルのモデ

リング、⑤クラスメイトとの役割を交代しながら実施する行動リハーサルとフィードバック及び社会的強化、⑥社会的スキルの使用を促す活動、⑦日常生活での社会的スキル使用の奨励、以上7つの要素から構成されていた。指導案の例として第6回「上手な断り方」の指導案を表3に示す。

### 3. 教育効果の評価

社会的スキル教育の効果を検討するために、指導前(4月下旬)と指導中(1学期末、2学期初め、2学期末、3学期初め)、指導後(3学期末予定)に、生徒に対して社会的スキルと主観的適応状態を調べるための自己評定尺度への回答を求めた。今回の報告では、指導前(4月下旬)と指導中(2学期末)の結果について報告する。記入漏れや記入ミスが多数あったものを除き、有効回答者98名を分析対象とした(男子48名、女子50名)。使用したのは以下の尺度であり、クラス担任に依頼しクラス単位で実施された。

#### (1) 社会的スキル尺度

渡邊・岡安・佐藤(2002)が作成した子ども用社会的スキル尺度を使用した。この尺度は、「仲間強化」(10

表3 社会的スキル指導案例：第6回上手な断り方

段階	活動内容	主な発問と指示	留意点	準備
前時をふりかえる 5分	1 前時の確認 2 約束事の確認	○1学期のふりかえりをする ○学習への4つの態度を確認する <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に練習しよう</li> <li>・他の人のやり方を見てみよう</li> <li>・友達や自分が上手にできたり、頑張ったらほめよう</li> <li>・自分で工夫してみよう</li> </ul> </div>	1学期の学習を思い出させ、共通するポイントの確認をする カードの提示 お互い気持ちよく授業に参加するために大切なことであることを確認する	カード
ウォーミングアップ10分	3 ウォーミングアップ活動	「電報ゲーム」 ①やり方を説明する ②グループに分かれて、縦一列になる ③一番後ろ（前）の人に先生が電報文を伝える ④それぞれ前の人の背中にひじを使って伝えていく ⑤最後の人まで伝わったら、先生に伝えるか板書させる ⑥答え合わせをして、あってる班には拍手をする ①「たいふうがおおい」 ②「あきになったね」 ③「まつけたべたい」 ④「せきがかったよ」 ⑤「こうようきれい」 ⑥「もうすぐこうきだ」 ⑦「てんきがいいね（わるいね）」 ⑧「どくしょのあき」	男女別の班をつくる（5,6人）人数が足りない班には、学生や先生が入る  答え以外は、話し合ってよい	
教示 20分	4 「断ること」について考える  5 本時の目標を知る	○断りにくい状況・断りやすい状況について考える 班に分かれて、様々な対象から言われたことにどう答えるかを考える ① 人物カード・状況カード・動作カードをそれぞれの封筒に入れておく ② じゃんけんでカードを引く順番を決める ③ 一人一枚順番に箱からカードをひく（人物・状況・動作の順でひく） ④ カードをワークシートに貼っていき、各班2つの場面をつくる ⑤ それぞれの場面で、どのように考えて、答えるかを記入していく ⑥ a 班で共有する b 班ごとに発表させる ⑦ 悩んだ末に結論を出したであろうパターンを取り上げる a その班にその理由を聞く b ランダムに自分だったらどう思うかを聞く 挙手をさせる ⑧ 相手や状況、やることの他に自分の意思によって結論を出していることに気づかせる ⑨ 本時の目標を確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>上手な断り方について考えよう ⇒相手を傷つけないで、自分も納得する</p> </div>	人物カードの中に友だちと先輩は必ず入れる  ⑤班の中で意見が分かれることが予想されるが、話し合いにより班としての結論を決める。意見を出す。 ⑥クラス、班のよって進行状況を見て授業をすすめる	ワークシート1 カード 封筒 のり  カードの内容 <人物> 先輩 友だち 先生 後輩 親 <状況> 他の用事がある 時間がない 塾がある 別の約束がある <動作> 掃除をする 部活に行く 遊びに行く 物を取ってくる

<p>15分</p> <p>教示とモデリング</p>	<p>6 場面を設定してロールプレイを行う</p> <p>I 攻撃的な言い方</p> <p>B 非主張的な言い方</p> <p>C 主張的な言い方</p>	<p>○ 教師同士または、教師と学生がシナリオにそってロールプレイをする</p> <p>○ ロールプレイをみてどうだったか生徒の感想を聞く</p> <p><b>パターン I</b></p> <p>生徒A：(急いで帰ろうとしている)</p> <p>生徒B：(離れたところから近づいてくる)「おーい」</p> <p>生徒A：「なんや」</p> <p>生徒B：「今日、帰りに街よらん？」</p> <p>生徒A：「あー、うるさいなー、今、忙しいんよ。見てわからん？」(走っていく)</p> <p>生徒B：「わかった！もう絶対誘わん！」(怒った様子で)</p> <p>○ 自分が言われたら(生徒Bだったら)、どんな気持ちになるか考えさせ、数名発表させる</p> <p>○ 出ない場合は、生徒B役をやった人に確認する</p> <p><b>パターン II</b></p> <p>生徒A：(急いで帰ろうとしている)</p> <p>生徒B：(離れたところから近づいてくる)「おーい」</p> <p>生徒A：「なに？」</p> <p>生徒B：「今日、帰りに街いかん？」</p> <p>生徒A：「う、うー————ん。でも……」</p> <p>生徒B：「何？」</p> <p>生徒A：「あの——」</p> <p>生徒B：「ダメなん？はっきり言ってや！」</p> <p>生徒A：「えっ、いいよ……」(がくつうなだれる)</p> <p>○ 自分が生徒A・Bだったら、どんな気持ちになるか考えさせ、数名発表させる。</p> <p>○ 出ない場合は生徒A・B役をやった人に確認する</p> <p><b>パターン III</b></p> <p>生徒A：(急いで帰ろうとしている)</p> <p>生徒B：(離れたところから近づいてくる)「おーい」</p> <p>生徒A：「なに？」</p> <p>生徒B：「今日、帰りに街いかん？」</p> <p>生徒A：「ごめん、行きたいけど、今から用事があるけえ、行けんのんよ。また、今度誘ってや」</p> <p>生徒B：「そうなん。それじゃ、また今度ね。ばいばい」</p> <p>生徒A：「ばいばい」</p> <p>○ IIIの後によかった点や気づいた点を発表させる</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 自分も相手も大切にしている</li> <li>② どうしてIIIだと自己尊重と思うのか？</li> <li>③ ②で、でなければ具体的に聞く。言葉かけはどうだったか？</li> <li>④ 生徒Aの最後のセリフを提示する</li> <li>⑤ もう一度、生徒に確認する</li> <li>⑥ 断り方のポイントの確認をする</li> </ol> <p>◆ 上手な断り方のポイント</p> <table border="1" data-bbox="369 1568 860 1734"> <tr> <td>ポイント①謝る</td> <td>ごめん(相手のことを考えて)</td> </tr> <tr> <td>ポイント②理由</td> <td>用事があるけえ(相手の理解を促す)</td> </tr> <tr> <td>ポイント③断り</td> <td>行けんのよ(自分の主張)</td> </tr> <tr> <td>ポイント④代替案</td> <td>また、今度誘ってや</td> </tr> </table> <p>⑦ 体の使い方と大事な点として、ポイントを確認</p>	ポイント①謝る	ごめん(相手のことを考えて)	ポイント②理由	用事があるけえ(相手の理解を促す)	ポイント③断り	行けんのよ(自分の主張)	ポイント④代替案	また、今度誘ってや	<p>シナリオは、別紙参照</p> <p>・パターン I の後には、相手の立場に立つことに留意させる</p> <p>⇒B:せっかく誘ったのに頭にきた</p> <p>・パターン II の後には、自分の気持ちに留意させる</p> <p>②ポイントになるべく生徒から引き出すように心がける</p> <p>③最初に言葉かけのポイントが出てきた場合には、それも大事だねと言うような形で取り上げる</p> <p>ポイントカード掲示</p>	<p>シナリオ</p> <p>ポイントカード</p>
ポイント①謝る	ごめん(相手のことを考えて)											
ポイント②理由	用事があるけえ(相手の理解を促す)											
ポイント③断り	行けんのよ(自分の主張)											
ポイント④代替案	また、今度誘ってや											

		<p>◆ 言葉かけのポイント</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>相手の近くで 相手を見て 聞こえる声で 状況に応じた表情で</p> </div>		
休 憩				
リハーサル 25分	7 上手な断り方について練習する。	<p>○ 班で練習する</p> <p>○ 導入で作成した場面を使って上手な断り方のポイントに気がつけた断り方の練習をする</p> <p>・ワークシートに書いてあるやり方にそって展開する</p> <p>チャレンジ1</p> <p>① 班を二つにわけ</p> <p>② 場面を選ぶ</p> <p>③ 配役を決める</p> <p>④ シナリオを作る</p> <p>⑤ 作ったシナリオにそって練習をする</p> <p>⑥ +α (役割を交代して台本にそって練習する)</p> <p>⑦ 班内で発表しあう</p> <p>⑧ お互いの良かったところを言い合う</p> <p>☆ 時間に余裕があれば、場面を交代して練習する</p> <p>チャレンジ2 (時間がないときはbを選択)</p> <p>a クラスみんなの前で一つの班から一場面ずつ発表</p> <p>b 班同士で発表しあう</p> <p>○お互いの良かったところを言い合う</p>	ワークシート2	
15分	8 スキルを使った活動をする (時間がない場合は割愛するなど各クラスで対応する)	<p>「セールス・ゲーム」</p> <p>① バインダー、ポイント表を配る</p> <p>② 商品カードを一人1枚とお金カードを一人5枚配る</p> <p>③ 出会った人とじゃんけんをし、買い手と売り手を決める (じゃんけんで勝った人が売り手)</p> <p>④ 売り手は、自分の商品カードに書かれた商品を持ち込む</p> <p>⑤ 買い手はなるべく断る</p> <p>⑥ セールスマンの説明が納得できたら買ってもいい</p> <p>⑦ 結果をカードに記入する</p> <p>⑧ 10分たったら、いったん活動をストップする</p> <p>⑨ 自己採点をする</p> <p>⑩ 売れた得点を挙手させ、トップを決めて、みんなでほめる</p> <p>⑪ 断った数を挙手させ、みんなで拍手をする。シールを一枚渡す</p> <p>商品：洋服・時計・ネクタイ・イス・ふでばこ・くつ・CD・ゲーム本体・チケット</p>	<p>④売り手の商品が売れた場合は、相手に商品カードを渡して、先生のところに次の新しいカードをもらいに行く</p> <p>⑤売れなければ、同じ物を次の人に売る</p>	バインダー ポイント表 商品カード お金カード
ふり返りと定着 10分	9 授業のふり返りを行い、宿題を出すことで定着化を図る	<p>○日常場面での実践を奨励する</p> <p>○「ふりかえり用紙」に回答を記入させる</p> <p>○宿題「やってみよう」について説明する</p> <p>○今日の参加シールを配る</p> <p>○次回の予告</p>	<p>ふり返り用紙配布</p> <p>宿題プリント配布</p> <p>シール配布</p> <p>前回のプリントの返却</p>	ふり返り用紙 HW 前回のプリント

項目)、「規律性」(6項目)、「葛藤解決」(4項目)、「先生との関係」(3項目)、「社会的働きかけ」(3項目)、「主張性」(3項目)の6つの下位尺度、29項目について自己評定を求めるものである。質問に対する回答は、4段階(全然そうでない=1, あまりそうでない=2, ときどきそうだと=3, いつもそうだと=4)で求められた。下位尺度ごとに項目得点を加算して合計点を算出した。得点が高いほどそれらの行動を多く示すことを意味している。

## (2) 中学生用メンタルヘルス・チェックリスト

岡安・高山(1999)が作成した中学生用メンタルヘルス・チェックリスト(簡易版)を使用した。この尺度はストレス症状, 学校ストレス, ソーシャルサポートの3領域から構成されている。

### ① ストレス反応

「身体的症状」「抑うつ・不安」「不機嫌・怒り」「無気力」の4つの下位尺度, 各4項目, 合計16項目から成る尺度で, 生徒に最近の心や体の状態について4段階(全くあてはまらない=0, 少しあてはまる=1, かなりあてはまる=2, 非常にあてはまる=3)で評定を求めるものである。

### ② 学校ストレス

「先生との関係」「友人関係」「学業」の3つの下位尺度, 各4項目, 合計12項目から成る尺度で, 生徒に日常の学校生活でのストレスフルな出来事(経験頻度)を4段階(全然なかった=0, たまにあった=1, ときどきあった=2, よくあった=3)で求めるものである。

### ③ ソーシャルサポート

生徒の知覚されたソーシャルサポートのレベルを測定するために4つのサポート源(父親, 母親, 先生, 友人)に対して, それぞれ4項目から成る尺度である。各項目(たとえば, 「あなたに元気がないと, すぐに気づいて励ましてくれる。」)に対し, それぞれのサポート源についてのソーシャルサポートの期待を4段階(ちがうと思う=1, たぶんちがうと思う=2, たぶんそうだと思う=3, きっとそうだと思う=4)で評定を求めるものである。本研究では, 父親・母親をまとめて家の人と表記し, 先生, 友人, 家の人の3つのサポート源に対する評定を求めた。

下位尺度ごとに項目得点を加算して合計点を算出した。

## (3) 孤独感尺度

生徒の孤独感を査定するために, 広沢・田中(1984)が作成した孤独感尺度から友人関係の下位尺度だけを使用した。これは, 10項目から成る尺度で, 4段階(あてはまらない=1, どちらかといえばあてはまらない

=2, どちらかといえばあてはまる=3, あてはまる=4)で評定が求められた。逆転項目の得点を変換した後で項目得点を加算して合計点を算出した。得点が高いほど孤独感が高いことを意味している。

## (4) 不登校傾向尺度

江村・有倉・岡安(2000)が作成した尺度を使用した。この尺度は, 「不登校感情」(4項目)、「不登校傾向」(2項目)の2つの下位尺度, 6項目から成り, それぞれ3段階(全然なかった=1, ときどきあった=2, よくあった=3)で自己評定を求めるものである。

## 4. 結果と考察

指導前(4月下旬)と指導中(2学期末)の社会的スキル得点の平均値と標準偏差を表4に示す。また, 指導前から指導中の社会的スキル総得点の変化について図1に示す。

社会的スキル総得点と各下位尺度の得点について, 指導前と指導中(2学期末)の差をt検定を用いて検定した。その結果, 社会的スキル総得点と葛藤解決で

表4 指導前・中の社会的スキルの平均値と標準偏差

	指導前(4月下旬)	指導中(2学期末)
総得点	80.34 (10.86)	82.7 (14.44)
仲間強化	30.92 (5.14)	31.6 (5.90)
規律性	16.72 (5.14)	16.79 (5.90)
社会的働きかけ	8.07 (1.81)	8.19 (2.28)
葛藤解決	9.84 (2.10)	10.53 (2.50)
先生との関係	6.26 (1.91)	6.59 (2.18)
主張性	8.53 (1.75)	8.59 (1.80)

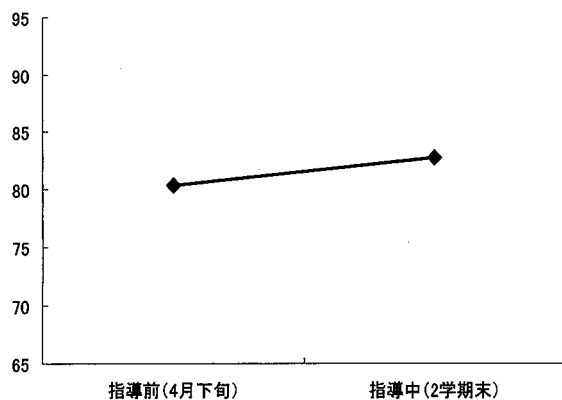


図1 指導前・中の社会的スキル総得点

は、指導前から指導中にかけて得点が有意に上昇していた。また先生との関係スキルにも指導前から2学期末にかけて上昇する傾向がみられた。

以上のことから、社会的スキル教育によって生徒の社会的スキルが全般的に上昇したことが分かる。特に、先生との関係スキルや葛藤解決スキルの上昇が顕著であった。

主観的適応状態についての指導前と指導中（2学期末）の得点の平均値と標準偏差を表5に示す。

各尺度の得点について、指導前と指導中（2学期末）の差をt検定を用いて検討した。その結果、不登校感情と不登校傾向において有意な得点の上昇がみられたが、他の尺度においては有意な差はみられなかった。不登校感情・不登校傾向においては、得点の上昇がみられるものの、得点そのものは低い状態を維持していた。これは、学期が進むにつれて、出席日数自体が増えるため、4月よりも2学期末の方が、相対的に欠席や遅刻などの経験が増したことで、指導前よりも不登校傾向の得点が上昇したものと考えられる。また、統計的に有意な差はみられなかったが、ストレス反応では、「不機嫌・怒り」の得点が減少し、学校ストレスサーでは、クラスの友達から仲間はずれにされたといったような「友人関係」の得点が減少している。友人関係において嫌悪的な経験が減少するということ

表5 指導前・中の主観的適応状態平均値と標準偏差

	指導前(4月下旬)	指導中(2学期末)
ストレス反応		
身体的反応	3.26 (2.76)	3.29 (2.79)
抑うつ・不安	1.78 (2.38)	2.18 (2.91)
不機嫌・怒り	2.73 (2.87)	2.32 (3.18)
無気力	3.18 (3.01)	3.34 (3.20)
ストレスサー		
先生との関係	1.30 (1.78)	1.28 (1.92)
友人関係	2.20 (2.65)	1.96 (2.66)
学業	4.28 (2.89)	4.35 (2.86)
ソーシャルサポート		
先生	9.05 (3.29)	8.57 (3.68)
友人	12.33 (3.02)	12.48 (3.24)
家の人	12.07 (3.59)	12.06 (3.45)
孤独感	18.13 (5.22)	18.20 (5.76)
不登校傾向		
不登校感情	5.93 (1.83)	6.49 (2.43)
不登校傾向	2.03 (0.17)	2.19 (0.57)

は、中学生の学校生活において大きな意味があると考えられる。

## 5. 各回のふりかえりシートによる生徒の感想

毎回の授業の最後に生徒にふりかえりシートを実施した。感想（自由記述）より各回ごとの意見をいくつか取り上げる。

### 第1回「オリエンテーション」

- ・他のクラスの人と交流できてよかった。
- ・楽しかった。

### 第2回「積極的な聴き方」

- ・先生の小さな劇がおもしろかったです。
- ・聞き手の態度で印象が変わると思った。
- ・積極的に聞けば、話している方も嬉しいし、話しやすいと思うので活用したい。

### 第3回「仲間の誘い方」

- ・誘い方の練習が楽しかった。
- ・普段あまり話さない人とも話すことができた。

### 第4回「あたたかい言葉かけ」

- ・セリフの中であたたかい言葉かけは、結構よくできたと思う。

### 第5回「1学期のまとめ」

- ・もう少し時間がほしかったです。
- ・楽しかった。

### 第6回「上手な断り方」

- ・今日は、断りづらいことはよくあるので、よかったです。
- ・普段は、断りに断れなかったので、これで上手に断れると思った。

### 第7回「気持ちのコントロール①」

- ・私もイライラして、そのままドアをけったりしていたからちゃんと落ち着こうと思いました。
- ・コントロールすることは大切だから、今日の授業はよかった。
- ・気持ちのコントロールは難しいと思った。

### 第8回「気持ちのコントロール②」

- ・つかれた。
- ・今日の授業はためになると思った。
- ・方法を考えるのが難しかった。

### 第9回「2学期のまとめ」

- ・楽しかった。
- ・班で協力できた。
- ・はじめ話が進まず、苦労したけど、後半は積極的になれた。

感想は、全体的に「楽しかった」、「日ごろ、あまり話さない人と話せてよかった」等、肯定的なものが多かったが、授業によっては、「実際では、あまり使えな

と思う」など、生徒のニーズと合わないものもあったため今後の改訂が必要であると思われた。

## 6. まとめ

今回の社会的スキル教育では、生徒の社会的スキルが上昇していたが、主観的な適応状態の改善までには至らなかった。しかし、主観的な適応状態の指標の中には、改善傾向のものもみられるため、一定の成果があったと考えられる。

## 7. 今後の課題

社会的スキル教育を本校に初めて導入するに際して、他の小学校や中学校の実践など先行研究の知見(江村・岡安, 2003; 小林・相川, 1999; 高岡町立高岡中学校・宮崎大学教育文化学部, 2001など)を参考にし、さらに生徒にニーズ調査を行い、指導するスキルの選定や指導案の作成を行った。しかし、生徒の実態と合わない部分がでてきたことやスキルレベルが様々な生徒に一齐に授業をするということで、どこに焦点を当てるかということが難しかった面がある。また、初めての導入ということで、教員の負担も大きかった。今後は、今回の結果をうけ、指導するスキルの精選とともに教員の負担軽減の工夫、生徒のモチベーションの維持への対策が必要であると考えられる。

## 引用文献

- 江村理奈・岡安孝弘 2003 中学校における集団社会的スキル教育の実践的研究 教育心学研究, 51, 339-350.
- 江村理奈・有倉巳幸・岡安孝弘 2000 中学生の不登校傾向と適応状態 日本教育心理学会第42回総会発表論文集, 677.
- 広沢俊宗・田中國夫 1984 異なった関係における孤独感尺度の構成 関西学院大学社会学部紀要, 49, 127-136.
- 小林正幸・相川充(編著) 1999 ソーシャルスキル教育で子どもが変わる 小学校一楽しく身につく学級生活の基礎・基本一 図書文化社
- 岡安孝弘・高山巖 1999 中学生用メンタルヘルス・チェックリスト(簡易版)の作成 宮崎大学教育学部附属教育実践研究指導センター研究紀要, 6, 73-84.
- 高岡町立高岡中学校・宮崎大学教育文化学部 2001 ソーシャルスキル教育指導案集
- 渡邊朋子・岡安孝弘・佐藤正二 2002 子ども用社会的スキル尺度作成の試み(1) 日本カウンセリング学会第35回大会発表論文集, 93.